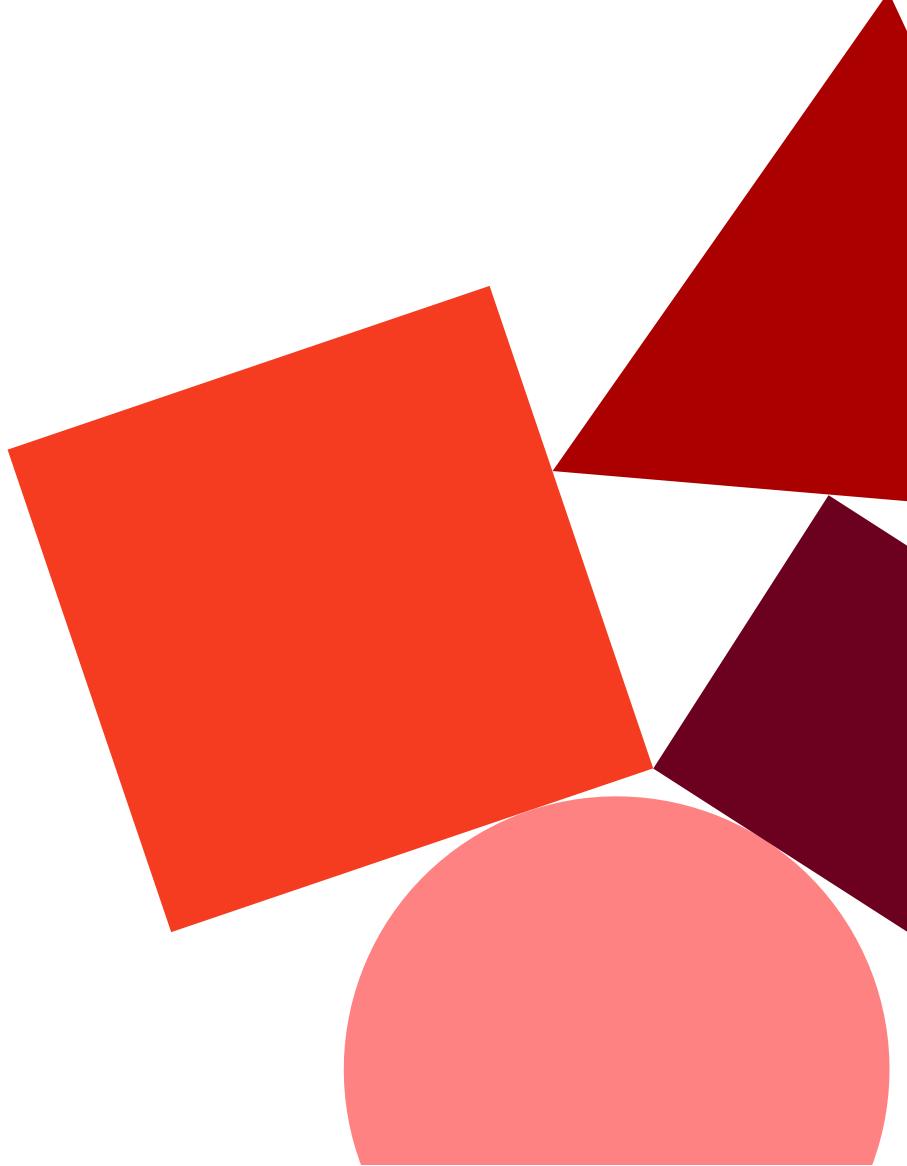




よりよく、寄り添う 販売管理クラウド

【自動処理活用】 複数レコードを 1レコードに集約

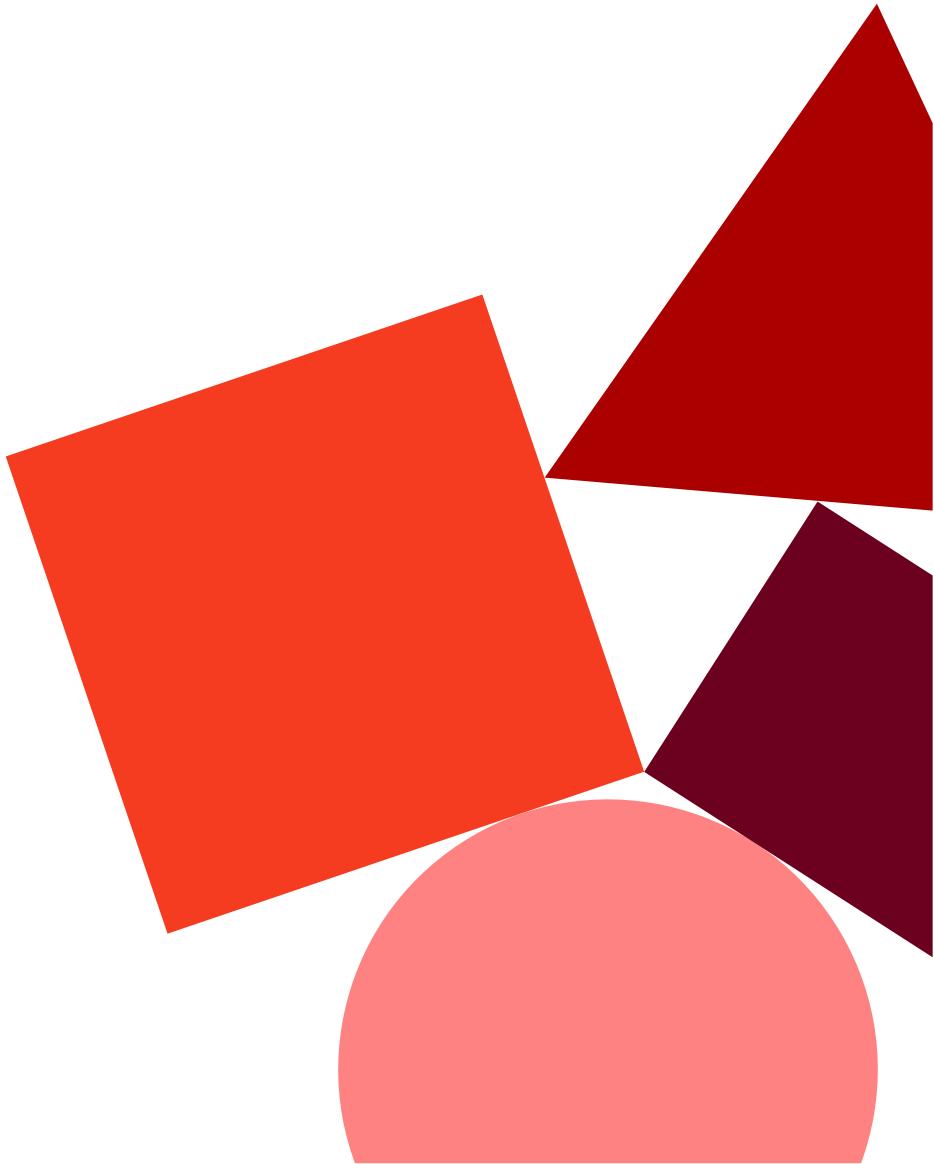


株式会社ラクス「楽楽販売」担当
サポート受付時間 平日9:30~17:00

Confidential

2024/03

1. はじめに
2. 自動処理の全体図
3. 設定STEP(1／3)
4. 設定STEP(2／3)
5. 設定STEP(3／3)



1.はじめに



「楽楽販売」では、自動処理を利用して、レコードをまとめることができます。

本資料では、

A-DBでは、複数レコードで管理されている情報を自動処理を利用し、

B-DBでは、1レコードにまとめる方法をご紹介します。

A-DB

受注No	顧客名	案件名	受注金額	受注月
0001	A社	WW案件	60,000	2022年3月
0002	A社	XX案件	70,000	2022年3月

(1) A社に対するレコードが複数作成されている。

B-DB

請求No	顧客名	請求月	請求金額合計	案件名	請求金額
0001	A社	2022年3月	130,000	WW案件	60,000

(2) A-DBからB-DBにデータ連携する自動処理を実行する。

(3) A社に対するレコードを1レコードにまとめられる。

1.はじめに



各部門の前提

営業部門：受注伝票の単位で受注DBにデータを作成したい。

経理部門：請求書を発行する単位で請求DBにデータを作成したい。

実施できること

受注DBでは、顧客が「A社」・受注月が「2022年3月」という内容で作成されている複数のレコードを、

請求DBでは、顧客が「A社」・請求月(受注月)が「2022年3月」という1レコードにまとめることが自動処理で実現できます。

営業部門：受注DB

受注No	顧客名	案件名	受注金額	受注月
0001	A社	WW案件	60,000	2022年3月
0002	A社	XX案件	70,000	2022年3月

経理部門：請求DB

請求No	顧客名	請求月	請求金額合計	案件名	請求金額
0001	A社	2022年3月	130,000	WW案件	60,000

受注No:0001のレコードがA社に対する2022年3月の請求内容に含まれている。

受注No:0002のレコードがA社に対する2022年3月の請求内容に含まれている。

2.自動処理の全体図



自動処理の全体図



各自動処理パートの役割

1. 実績集計DBを検索(レコード検索パート)

請求DBに自動処理を実行する受注DBのレコードのまとめ先があるかを検索します。

2. レコード作成(レコード登録パート)

1.の結果、請求DBにレコードのまとめ先が存在しない場合、自動処理を実行する受注DBのレコード内容を元にレコードを作成します。

3. レコード登録パート(レコード更新パート)

1.の結果、請求DBにレコードのまとめ先が存在する場合、自動処理を実行する受注DBのレコード内容を既に作成されているレコードの明細に追加します。

3.設定STEP(1/3)



レコード検索パートでは、レコードをまとめる条件で実施し、まとめ先となるレコードがあるかを確認します。

レコード検索パートが実施していること

・検索内容

レコードをまとめる条件である「顧客名」と「請求月」が一致するレコードが請求DBに存在するかを検索します。

・顧客名が「A社」かつ請求月が「2022年3月」を検索する場合

請求DBのデータ内容が下記である場合、顧客名が「A社」かつ請求月が「2022年3月」のレコードが存在しないため、検索結果は「No」(まとめ先のレコードが存在しない)となります。

・請求DBのデータ内容例

顧客名	請求月	請求金額合計	案件名	請求金額
B社	2022年3月	10,000	案件1	10,000
B社	2022年2月	50,000	案件2	20,000
			案件3	30,000
B社	2022年2月	90,000	案件4	40,000
			案件5	50,000

設定内容

検索内容を実現するために設定内容は下記です。

条件1、条件2の両方を満たす必要があるため、「AND条件」を選択します。

対象レコード	請求DB
検索結果	<input type="checkbox"/> 検索結果を明細単位で表示
検索結果の並び順：1	請求ID の昇順
検索結果の並び順：2	----- の昇順
検索結果の並び順：3	----- の昇順
1件まで絞込み	<input checked="" type="checkbox"/> 備款件存在した場合に1件

条件1

請求DBにある「顧客名」の項目の値が、自動処理を実行する受注DBのレコードの「顧客名」の値と等しい。

<input checked="" type="radio"/> AND条件（すべての条件に当てはまる） <input type="radio"/> OR条件（いずれかの条件に当てはまる）
【選択レコード】 [受注DB]
顧客名 が : 顧客名 選択 と等しい
【選択レコード】 [受注DB]
請求月 が : 受注月 選択 と等しい

条件2

請求DBにある「請求月」の項目の値が、自動処理を実行する受注DBのレコードの「受注月」の値と等しい。

<input type="radio"/> 明細行のいずれかが一致

4. 設定STEP(2/3)



レコード登録パートでは、請求DBに新しいレコードを作成します。

レコード登録パートが実施していること

請求DBに新しい「顧客名×請求月」のレコードを作成します。
今回の場合、顧客名が「A社」かつ請求月が「2022年3月」となる
レコードが請求DBに作成します。

・レコード登録パート実施後のデータ内容

顧客名	請求月	請求金額合計	案件名	請求金額
B社	2022年3月	10,000	案件1	10,000
B社	2022年2月	50,000	案件2	20,000
			案件3	30,000
B社	2022年2月	90,000	案件4	40,000
			案件5	50,000
A社	2022年3月	60,000	WW案件	60,000

設定STEP(1/3)では作成されていなかった
「顧客名:A社」かつ「請求月:2022年3月」の
レコードを作成します。

設定内容

レコード登録パートでは、請求内容の共通の内容をヘッダ項目
に、個別の内容を明細項目に登録します。

今回の場合、
「顧客名」や「請求月」
はヘッダ項目に
登録します。

今回の場合、
「案件名」や「受注金
額」は明細項目に
登録します。

5.設定STEP(3/3)



レコード更新パートでは、まとめ先となるレコードが存在する場合、明細項目に新しい情報を追加します。

レコード更新パートが実施していること

請求DBに既にまとめ先となるレコード(顧客名が「A社」かつ請求月が「2022年3月」)が存在するため、明細項目に「A社」の「2022年3月」が請求月となる案件情報を追加します。

・レコード更新パート実施後のデータ内容

顧客名	請求月	請求金額合計	案件名	請求金額
B社	2022年3月	10,000	案件1	10,000
B社	2022年2月	50,000	案件2	20,000
			案件3	30,000
B社	2022年2月	90,000	案件4	40,000
			案件5	50,000
A社	2022年3月	60,000	WW案件	60,000
			XX案件	70,000

設定STEP(2/3)で新規作成したレコード

設定STEP(2/3)では作成されていなかった明細を追加します。

設定内容

レコード更新パートでは、明細項目の更新のみ実施するため、「新しい明細行を末尾に追加」を選択し、明細項目に個別の内容を更新します。